

社会の観点から見た  
中長期で考える  
認証評価制度・情報公開の在り方について



2017年8月9日  
リクルート進学総研所長  
リクルート「カレッジマネジメント」編集長  
小林 浩

# 社会から見た大学の状況（保護者・人事管理職の時代との比較）



	1990年	2017年	90年比
18歳人口	約205万人	約120万人	4割減
大学数	507校	780校	約1.5倍
大学進学率 (高等教育進学率)	24.6% (53.7%)	52.6% (80.6%)	約2倍
学士の学位に付記する専攻分野名称の数※	29種類	約700種類 ※うち約6割が一大学のみの独自名称	約24倍
私立大学定員割れ	-----	39.4%(昨年は44.5%) (学生募集停止の大学も)	全入時代 が間近に

※2014.7日本学術会議「学士の学位に付記する専攻分野の名称の在り方について」より

情報公開が進まない

学部名から中身がわからない

学習成果が見えづらい

偏差値が信頼できない

疑問

- ・どの学部で何を学んでいるのか
- ・大学卒業時にいったい何が身についているのか
- ・自ら考え、主体的に行動できる人材への枯渇感（指示待ち社員の増加）
- ・グローバル化が進む中で、日本の大学対応できているのか
- ・地方大学は無くなってしまわないのか

高等教育の量的拡大⇒大学教育・研究の質は担保、保証されているのか

- 格差拡大への対応が問われる中で、高等教育の無償化が議論されている
- しかし、国民の税金を投入するに当たっては、量的に拡大した高等教育に対し質保証がされていない、あるいは大学の数が多すぎるという声が高まっている。
- 骨太の方針においても、「教育成果に基づく私学助成の配分見直し、大学教育の成果の見える化を進める」と記されている。
- 社会的に見ても、大学の価値が入学時の偏差値による序列化のみで評価されるのは健全ではないのではないかと。時間はかかるかもしれないが「入学がゴール」ではなく、大学での学びが評価される「卒業がゴール」の国にしていく必要があると考える。
- そのためには、2040年という中長期的な議論の中において、改めて認証評価制度と情報公開の在り方、助成（奨学金）等のインセンティブの在り方をセットで検討してもよい時期にきているのではないかと。

- 規制緩和⇒大学の数の増加、学部・学科名称の多様化
- 「事前規制」から「事後チェック」へ⇒認証評価の充実へ
- 自己点検評価⇒第三者評価によって、各大学における評価に対する意識は高まっている。
- 温度差はあるものの、授与する学位の質を自律的に検証するという、大学の内部質保証システムは徐々にだが、確実に構築されつつある。
- しかし、社会的には、各大学や認証評価機関の努力にもかかわらず、全くと言っていいほど、その価値が知られていない。
- 認証機関の厳しい評価によって、閉鎖に追い込まれた大学は殆どなく、逆に「不可」とされた大学が、公立化によって多くの志願者を集めるといった事例もでてきている。
- また、特に私学においては、収入の根幹である学生募集にも、ほとんど効果をもたない。
- 大学の評価が努力したほど社会に浸透せず、大学の社会的な価値向上に資することがないため、大学側から“評価疲れ”といった言葉さえ出てきている。
- 大学の質保証が社会から問われる中で、認証評価の位置づけを見直し、認証評価に基づく私学助成の在り方を含めたインセンティブやペナルティの在り方を検討してはどうか。

## 進路選択をする上での課題と大学ポートレートの活用（利用者視点から）

	情報公開が進まない	偏差値が信頼できない	学習成果が見えづらい	学部名から中身がわからない
<b>現状</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報は公開しているが、分かり易い言葉になっていない</li> <li>・欲しい情報にたどり着けない、探せない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偏差値以外の情報を探しているが、学校間や経年で比較できる情報がない（ランキングを意識しすぎ）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのポリシーが掲出されている</li> <li>・資格取得、就職率はあるが、退学率等都合の悪い情報は出ていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部名が多様化しすぎて、名称の検索だけでは目的の学部・学科にたどり着けない</li> </ul>
<b>解決策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生、保護者、高校教員等大学関係者以外にも分かり易い表現に</li> <li>・正しいリンク先の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数大学比較、経年比較ができるように（独自の指標でのランキングが乱立状態。正しい情報で比較できるように）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つのポリシーの掲載を徹底、分かり易く表示</li> <li>・認証評価と連動して、わかりやすく掲載できないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・学科の名称だけでなく、学ぶテーマや資格などから検索できないか</li> </ul>

大学が説明責任を果たす上での基本が情報公開。

- ◆ 大学の基盤的な共通の情報
- ◆ 各大学の建学の精神や理念に基づいた情報
- ◆ 国際的な共通指標や質保証に関する情報等

がきちんと利用者視点で、比較できるような形で情報公開されることが望ましい